

アンケート結果を受けて改善したいところ 【創造科学系】

週当たりの学習時間で約半数がなしと回答していることについて、今年度は教員が話題を提供することしか行わなかったことが原因だと考えるため、次年度以降は、話題を学生が自宅で調べることで提供することを行い、自宅での学習を促すように試してみたいと考える。

ほとんどの設問に肯定的な解答であるが、授業の難易度に「難しい」・「難しすぎる」と解答した受講生が半数近くおり、それにもかかわらず、学習時間の時間が0或は1時間以下の受講生がいることに、改善の余地があるように考えられる。

探究を促す指導の仕掛けと工夫が必要であろう。

授業を受けた上での自主学習(問3)、週当たりの学習時間(問15)がやや低い評価であった。体育の授業の難しい点であるが、課題を出すなどの家庭学習を考えたい。

自分で考え、行動する機会がなかったようですので、課題を提示し、調査するといった機会を設けたいと思います。

反省と改善するのみ。肝心なのは、詳細・具体的に行きことであるため、この内容は別のところで議論していきたい。

出張と授業が重ならないように日程調整を工夫し、学生に迷惑をかけないように努めます。

授業難易度について、「難しい」とするアンケート結果が、美術平均(23.2%)を相当上回り、(53.1%)となっている。

→では「易しく」すれば良いか?!という訳でもないと思っています。一方で「週当たりの学習時間3h以上」が34.4%(美術平均14%)は、大学教育として適切と考えています。

「問13授業の難易度」で難しい・難しすぎるが約4割であったことから、内容について再検討をしてみたい。

本授業により、新しい考えや知識が身に着いたという回答は良好であり授業自体は成功裏に終わることができて安心した。しかしながら、授業を受けた上で自らが主体となって文献調査などしたかという質問に対してはどちらともいえない、あまりそうは思わないなどの回答も多々みられ、本授業が学生本来がもつ勉強をしたいという意欲を引き出すことには至っていないところは強い反省点として残る。

やや授業が難しいという回答も多かったので、難易度を落とすということではなく、より理解をしやすい工夫をしていきたい。

今年度は、特に受講生たちが、これまで以上に熱心に授業に取り組んでくれたこともあり、またアンケートの集計結果を見ても、特に改善するところがないように感じられる。

「日本美術史概論Ⅱ」と「日本美術史研究Ⅱ」については、初歩的な内容から専門基礎的な内容までを講義形式で教授していることもあり、学生の反応を見て主体的な授業参加に導く点にやや難がある。学生からの質問事項をくみ上げることも含めて、より積極的な授業参加を促すよう努めたい。

教材・教具(板書、プロジェクター、配布資料)をより分かりやすいものへ改善していきたいと考えています。

満足している

(織)満足している。
(金工)特になし。造形文化コースがなくなるため、この授業は今年度が最後となる。15～17人の授業人数は実技制作の限界であった。

教員とのコミュニケーションはうまく取れているかの項目で、そう思わないと全くそう思わないと回答したものが4名いたことを反省し、来年度以降の授業に活かしたい。

教材・教具がわかりやすいかという設問について、「どちらともいえない」との回答が多かった。授業結果を鑑みるに、ワークシート等が学生にとって記述しやすい構成でなかったこと、プロジェクター等の機器がうまく機能しない場面が幾度かあったため、その点は準備段階における反省点としたい。
また、この授業のための週当たりの学習時間についての回答は、「1～2時間」以下が非常に多かった。これは授業で達成したい目標のための学習時間からかけ離れていると言わざるを得ない。課題の与え方や学習方法について、より詳しく提示すべきであると考えた。

授業の難易度が高いと考えている学生さんがやや多いですが、技術の難易度を下げたことや、製作物の数を減らしてしまうことは、学習内容や技能が落ちてしまうことにつながってしまうと考えています。頑張っただけで身に付けたものは必ず役立ちます。何度もやり直しをしたことは必ず身に付いています。今は、修行しているんだというような気持で主体的に取り組めることが出来れば、将来役立つ力が身に付くはずで。そういうことを理解してもらえるように、学生の皆さんとのコミュニケーションがもっととれるように、さらにきめ細やかな指導をしていきたいと思っています。

授業が進むにつれ、学生の皆さんに知識や技能が身に付き、上達していることは実感しています。自分が作った数々の作品に対して愛情を感じている姿もよく目にしました。難しいことが出来るようになった自分に自信を持ってください。

自然科学的な実験であるから、その理論的根拠がしっかりと把握できるような裏付けの説明をする時間的余裕が取れればと思うが、学生に調査を行わせ、その調査結果への示唆のみに終わっていることが改善できたらと思う。

また、最初に簡単な実験実習要領書を配付し、実際の実験を行う際により詳細な説明を口頭で述べているが、あるいは要領書自体をもう少し丁寧かつ詳細な内容のものにした方が良かったかもしれないと思っている。

難易度について、易しいという回答が思いのほか多かった。授業で扱う楽曲は技術的には簡単に思えるかもしれないが、そこから音楽を考え深めていくことは決して簡単ではない。その部分をさらに伝え、自分自身で音楽を深めていくことを考えられるような工夫が必要だと感じた。

情報量が多いようなので、内容をもう少し精選すべきかもしれない。

アンケート集計結果の「問11」の結果を踏まえ、学生とのコミュニケーションをより高められるようにしたい。

全ての問いに対して、極少数ではあるが「全くそう思わない」や少なからず「あまりそう思わない」の回答があることから、更にそれぞれが納得できる授業内容やプロセスを構築すべきであると考えます。
全体的な底上げは勿論ではあるが、「難しすぎる」「内容が多すぎる」の回答があることが最も重要な改善点である。易しくすれば習得内容を減らしてしまうため、内容を減らさずに理解しやすくすることが求められている。